

十勝岳

○大正火口壁の表面温度分布およびSO₂放出量

2006年以降の観測結果と比較して、大正火口の表面温度分布、放出熱量およびSO₂放出量に際だった変化は認められない。

大正火口北西内壁には上下二筋の温度異常域が分布し、北西外壁の2ヶ所に温度異常域が認められる(図2)。なお、今回の測定で使用したサーモカメラは、過去2回で使用したカメラよりも高分解能である。

SO₂放出量の遠隔測定は過去2回の測定と同様に望岳台で行った(6月27日)ほか、十勝岳東側の林道を利用してトラバース測定(6月29日)も実施した。

トラバース測定から見積もられたSO₂放出量は、パン測定で求められた値よりもやや大きい。

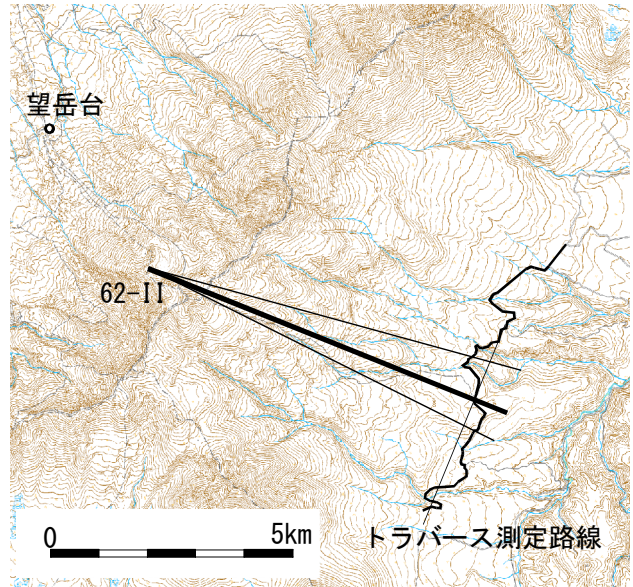


図1. 表面温度・SO₂放出量の遠隔観測点(望岳台)およびSO₂放出量トラバース測定路線。62-II火口からトラバース測定路線に向かって引かれた直線のうち、太線はSO₂観測値がピークを示し、細線の範囲で有意な観測値が得られた。

$\epsilon_0: 1.0$ 外気温: 16.8°C 2008年9月18日05時48分

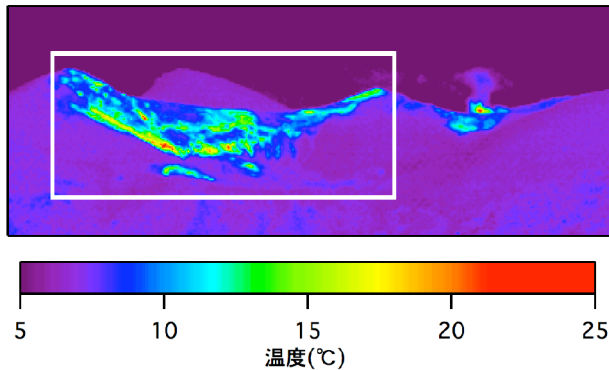


図2. 大正火口および62-I火口壁の表面温度分布。白枠は表熱量を見積もった領域を示す。

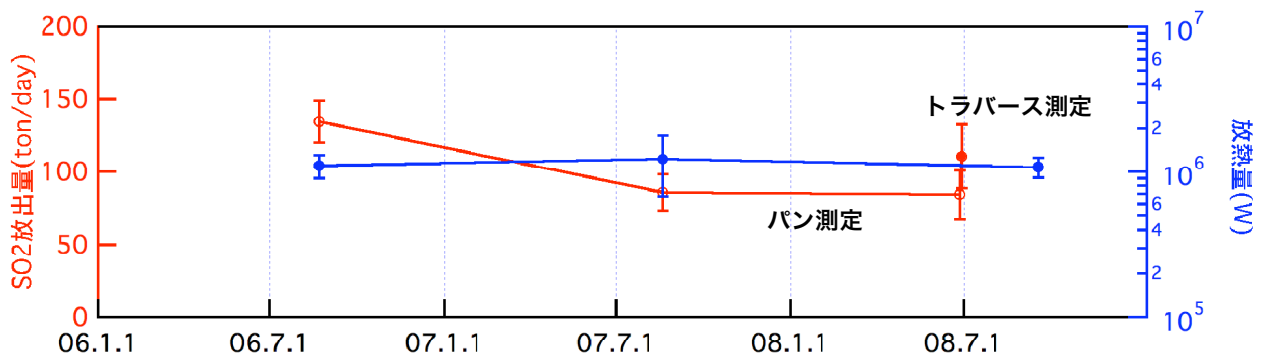


図3. 大正火口からの放熱量(青)およびSO₂放出量(赤)の経年変化。

(大島・前川)

十勝岳